

## 火星大気散逸のモデリング Modeling of the Martian atmosphere escape

宮澤 淳次<sup>1\*</sup>  
Junji Miyazawa<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 北海道大学  
<sup>1</sup>Hokkaido University

火星は大気が希薄で乾燥した惑星である。しかし火星表面には水が流れた痕跡があり、数十億年前は、現在よりはるかに高い気圧で暖かく湿った大気であったと考えられている。大気が希薄になった理由の一つとして、宇宙空間への大気散逸が考えられる。火星は地球より低重力であり、また固有磁場が存在しないので、

太陽風の影響を受けやすい。様々な大気散逸過程が考えられているが、その散逸過程の詳細は明らかにされていない。そこで、我々は衝突の効果を取り入れた大気散逸のモデリングを構築し、火星周辺での大気分布を求めた。本講演では、衝突の効果を取り入れた、大気分布と散逸量について報告する。

キーワード: 火星, 大気散逸  
Keywords: Mars, Atmospheric Escaping